

高卒認定試験の研究と指導上の課題

—「地理A」「地理B」の問題内容に着目して—

小宮 龍一

1 はじめに

大学入学資格検定（以下「大検」という。）は義務教育を終了した者で高等学校教育を受けられない勤労青少年等に対し、能力に応じて広く高等教育を受ける機会を与えるための検定試験として1951年に発足した。2004年まで54年間実施され、2005年に高校卒業程度認定試験（以下「高卒認定試験」という。）に移行した。

筆者が教員になった1980年代には多くの教員が「大検に合格するのは難しい」と考えていた。ところが2005年に大検を引き継いだ高卒認定試験について、ある予備校のホームページには「過去問を見た人の多くは『思ったより簡単!』と言っています」、「中学の教科書レベルで十分対応できる問題もたくさんあります」と記載されている。

果たして1980年代の大検は本当に「合格するのが難しい」検定であったのか。現在の高卒認定試験は「簡単」なのか。本稿では大検及び高卒認定試験の試験制度の変遷と合格倍率の推移を整理することで、大検と高卒認定試験の「難しさ」について考察したい。

併せて、予備校のホームページに記載されているように高卒認定試験の問題は本当に「中学の教科書レベルで対応できる」のか。高卒認定試験の問題内容を分析することで明らかにしたい。

2 試験制度と合格率から「難しさ」を考える

2-1 試験制度

2-1-1 合格に必要な科目数

1951年の大検発足当時、合格に必要な科目数は14科目であった。その後、高等学校の学習指導要領の改訂等に伴い合格に必要な科目数は表1に示したように増減している。2004年8月に中央教育審議会から「大学入学資格検定の見直しについて（答申）」が出されたことを受け、大検は2004年で終了し、2005年から新たに高卒認定試験が実施された。大検から高卒認定試験への移行にあたって、ペーパー試験のみでの評価になじまないという視点から家庭科が試験科目でなくなり、合格に必要な科目は1科目減少して8～9科目となった。また2014年に学習指導要領の改訂に伴う変更があり合格に必要な科目は8～10科目となった。なお、本稿では表1のように合格に必要な科目数が同じである期間を大検第1期から大検第5期、高卒認定試験第1期から高卒認定試験第2期と区分することとする。

現行の高卒認定試験では最も少ない場合で8科目に合格すれば高卒認定試験の合格となる。大検第2期（1965～74年）では16科目に合格することが合格要件となっていた。この時期の大検と比較すれば、合格に必要な科目数は16科目から8科目へと半減している。なお大検はその発足当初より、1回の試験で合格に必要な科目のすべてについて合格することを求めるのではなく、2回目以降の受験も併せて合格科目の累積をすることで合格することができる制度であった。高卒認定試験もその制度を受け継いでいる。

(表1)

区分	期間	合格に必要な科目数
大検第1期	1951～64年	14科目
大検第2期	1965～74年	16科目
大検第3期	1975～85年	14～15科目
大検第4期	1986～2000年	11～12科目
大検第5期	2001～04年	9～10科目
高卒認定試験第1期	2005～13年	8～9科目
高卒認定試験第2期	2014～23年	8～10科目

2-1-2 受験機会の拡大

大検は1951年に開始されて以来、毎年1回、7月か8月に実施されていたが、2001年以降は毎年8月と11月の2回実施されるようになった。受験機会が年1回であった時期には中学校卒業者が18歳までに合格しようとした場合、毎年受験しても3回しか受験できなかった。受験機会が年2回となったことで6回の受験が可能となった。大検第2期（1965～74年）は合格に必要な科目数が16科目で受験機会は年に1回であったので、3回の受験で16科目に合格することが必要であった。一方で現在の高卒認定試験は受験機会が年2回で、合格に必要な科目数は少ない場合には8科目となっている。6回の受験機会の中で8科目に合格すればよい。現在の高卒認定試験が大検第2期と比べた時に合格しやすい制度となっていることは明らかである。

2-2 合格率

2-2-1 合格率の推移

大検、高卒認定試験の受験者数、合格者数については毎年文部科学省がホームページで公表している。本稿ではホームページで公表された合格者数を受験者数で除した数字を合格率とし、「%」を単位として表すこととした。なお、公表される合格者には一部科目を合格した後に高等学校等で履修した単位等をもって合格した者も含まれている。このことから、公表される合格者数を受験者数で除して求めた合格率は実際の合格率とわずかな誤差がある。

大検と高卒認定試験の受験者数、合格者数と合格率は稿末の資料①のとおりである。大検の毎年の合格率を平均すると28.9%であった。高卒認定試験は2022年までの毎年の合格率を平均すると43.6%であった。なお2001年以降の大検及び高卒認定試験は年に2回実施されているが、受験者数及び合格者数は2回の試験の合計人数から計算している。それぞれの合格率の平均で比較すれば大検の28.9%に対して、高卒認定試験は43.6%である。高卒認定試験が15.7ポイント上回っており、大検よりも高卒認定試験の方が合格しやすい

ということができる。しかしながら大検が54年間実施された中で合格率が最も高かったのは1998年の59.0%であった。また高卒認定試験の2012年と2013年の合格率は34%台であった。単純に平均合格率の比較のみで大検よりも高卒認定試験の方が合格しやすいと結論づけることは難しい。

2-2-2 時期区分毎の合格率

「2 試験制度の変遷」で示したとおり大検と高卒認定試験の合格に必要な科目数は高等学校学習指導要領の改訂等に伴って増減していた。2-1-1では合格に必要な科目数を基準として大検を第1期から第5期、高卒認定試験を第1期、第2期と区分した。各期の合格率の平均を求めると表2のとおりとなる。

(表2)

区分	期間	合格率の平均
大検第1期	1951～64年（14年間）	12.6%
大検第2期	1965～74年（10年間）	22.5%
大検第3期	1975～85年（11年間）	38.7%
大検第4期	1986～2000年（15年間）	37.6%
大検第5期	2001～04年（4年間）	42.6%
高卒認定試験第1期	2005～13年（9年間）	40.2%
高卒認定試験第2期	2014～22年（9年間）	47.0%

2-2-3 合格率のまとめ

1951年に実施された第1回大検の合格率は5.6%であった。第2回以降の大検の合格率は徐々に上昇するが大検第1期（1951～64年）の合格率の平均は12.6%であった。第1期の大検は「8人が受験して1人が合格する」割合の「難しい検定」であった。

その後、大検の合格率は上昇し大検の第3期（1975～85年）から第5期（2001～04年）、高卒認定試験の第1期までの合格率の平均はいずれも40%前後であった。「10人が受験して4人が合格する」割合である。筆者が公立高校の教員となったのは1980年である。当時の高校現場の多くの教員は「大検に合格するのは難しい」と考えていた。しかしながら実際には大検第1期や第2期と違って「10人が受験して4人が合格する」検定になっていた。

高卒認定試験第2期（2014～22年）はいずれの年の合格率も45%以上であり、2020年の合格率50.7%は高卒認定試験の中で最も高い合格率であった。高卒認定試験第2期の合格率の平均は47.0%であり、高卒認定試験は概ね「受験者の2人に1人は合格する」試験となっている。

3 高卒認定試験の試験内容

3-1 分析する試験問題

本稿では2022年8月の第1回試験で実施された地理A、地理B、同年11月の第2回試験で実施された地理A、地理Bの試験問題を分析する。地理A、地理Bの試験問題は大問が5題、各大問は4つの問で構成されている。合計で20の問があり、各問の配点は5点で合計100点満点となっている。第1回試験においても第2回試験においても地理A、地理B

の共通問題があり、20問のうちの8問が共通問題となっていた。

3-2 問題内容の分析

3-2-1 分析の方法

各問は基本的に問の文章、資料（文章、地図、グラフなど）、選択肢（4択）によって構成されている。資料は2種類、3種類が用いられている間も多い。各問で解答するために求められる知識（a）や技能（b）を次のように区分した。

a 高校の教科書（地理A、地理B）に記載されている知識

b-1 文章（文）を読み取る力

b-2 地図を読み取る力

b-3 グラフを読み取る力

b-4 表を読み取る力

b-5 絵や写真などの図版を読み取る力

第1回試験の地理A、地理B、第2回試験の地理A、地理Bの合計80問について1題ずつ解答し、解答するためにどの知識（a）や技能（b1～b5）を求めているかについて分析した。具体的な分析は次のように行った。

【分析例（1）】第1回試験「地理A」大問1－問1

◇設問の内容

資料の世界地図（メルカトル図法）と説明文から読み取った内容として不適切なものを選択肢（①～④）から一つ選ぶ問題である。地図には緯線・経線が15度間隔で示され、AからDの4地点が示されている。説明文には「地図中の白部は、その時点で太陽光が当たる範囲」、「時間の経過とともに白部は左側に移動していき、24時間後に白部の中心は現在の位置に戻る」などと記載されている。

◇選択肢（①～④）の正誤についての判断

「① 資料1は、北半球が冬至になる頃の様子を示したものである。」

→地図と説明文から北半球の高緯度地域に1日中太陽光が当たらないことを読み取ることができるので正文と判断できる（b-1、b-2）。

「② 地点Aでは、まもなく日の入りを迎える。」

→資料の地図と説明文から地点Aはまもなく日の出を迎えることを読み取れることから誤文と判断できる（b-1、b-2）。

「③ 地点Bは、この日は1日中太陽が昇らない。」

→地図と説明文から正文と判断できる（b-1、b-2）。

「④ 地点Cと地点Dを比較すると、この日の日の出から日の入りまでの時間は地点Dの方が長い。」

→地図と説明文から正文と判断できる（b-1、b-2）。

◇分析の結果

以上のようにこの問の解答には「b-1 文章を読み取る力」、「b-2 地図を読み取る力」が求められている。

【分析例（2）】第1回試験「地理A」大問1－問2

◇設問の内容

資料の「メルカトル図法の世界地図」と「東京を中心とした正距方位図法の世界地図」

から読み取った内容として不適切なものを選択肢（①～④）から一つ選ぶ問題である。

◇選択肢（①～④）の正誤についての判断

「① 資料中のAは東京からリマまでの等角航路を、Bは大圏航路を示している。」

→高校の地理A，地理Bで学ぶメルカトル図法と正距方位図法の特徴と「等角航路」，「大圏航路」についての知識がないと正誤の判断が難しい（a）。

「② 東京から見たリマの方位は、南東である。」

→誤文であるが、高校の地理A，地理Bで学ぶメルカトル図法と正距方位図法の特徴についての知識がないと正誤の判断をすることが難しい（a）。

「③ 東京からリマまでの距離は10,000km以上離れている。」

→正距方位図法の地図に東京とリマの距離が直線で示されており、「注」に東京から地図外側の円までは「約20,000km」とあるので、これらのことから正文であることが判断できる（b-1，b-2）。

「④ 東京からリマまでの距離は、東京からロングイールビュエンまでの距離よりも長い。」

→高校の地理A，地理Bで学ぶ「正距方位図法では中心からの距離が正しく表示される」という知識がないと正誤の判断をすることが難しい（a，b-1，b-2）。

◇分析の結果

以上のようにこの問の解答には「a 高校教科書の知識」，「b-1 文章を読み取る力」，「b-2 地図を読み取る力」が求められている。

3-2-2 問題分析の結果

ある予備校のホームページに高卒認定試験について「思ったより簡単」，あるいは「中学の教科書レベルで対応できる」という内容があったことから，本稿では「高卒認定試験の問題は中学校の教科書レベルで対応できるのか」という問をたてた。そして分析例に示した方法により2022年の地理A，地理Bの試験問題全80問について各問で解答に求められる知識・技能を分析した。その結果は稿末の資料②のとおりである。80問の中で「高校の教科書に記載されている知識」を求める問題はわずかに5問であった。残る75問については「高校の教科書に記載されている知識」がなくても文章（文）・地図・グラフ・表・図版を読み取ることで解答することが可能であった。「中学の教科書レベルで対応できる」問題，つまり「高校の教科書に記載されている知識」が求められない問題が含まれているであろうと予想はしていた。しかし「高校の教科書に記載されている知識」が求められない問題が75題，全80問の93.8%であったことは驚きであった。地理A・地理Bの試験問題は文章・地図・グラフ・表・図版を読み取る技能があれば，知識については「中学の教科書レベルで対応できる」問題内容と言うことができよう。

また解答にあたって求められる技能(b1～b5)に関しては次のような分析結果となった。

・文章（文）を読み取る力	67問
・地図を読み取る力	53問
・グラフを読み取る力	32問
・表を読み取る力	11問
・絵や写真などの図版を読み取る力	32問

なお一つの設問の中で複数の技能を求める問題も多く2種類の技能を求める問題が42問，3種類の技能を求める問題が26問，4種類の技能を求める問題が7問であった。

4 教科指導等の課題

本稿において現在の高卒認定試験は「概ね受験者の2人に1人が合格する」試験であることが明らかになった。また、高卒認定試験の地理A・地理Bの多くの問題では「高校の教科書に記載されている知識」を求められないことも明らかになった。これらのことから高等学校における教科指導等の留意点について整理したい。

4-1 中途退学に係る指導

高卒認定試験の前身である大検が1951年に発足した当時、大検の目的は経済的理由などにより高等学校に進学できなかった勤労青少年を対象に大学入学資格を付与することであった。現在の高卒認定試験では受験者に占める勤労青少年の割合は大きく低下する一方で、受験者に占める高校中退者の割合が大きくなっている。文部科学省は高卒認定試験の実施後に「試験実施結果」を発表し、その中で「高卒認定試験合格者の最終学歴別状況」を公表している。2022年の高卒認定試験の合格者数は7,961人で、そのうち4,026人(50.6%)が高校中退者であった。高校に在学している生徒がやむなく中退することとなり、中退後に高卒認定試験を受験することが話題になった場合には、次のような点に留意して適切な指導や助言をすることが大切である。

◇免除科目の有無の確認

高校在学中に修得した科目があれば高卒認定試験科目の試験を免除される場合がある。ただし「高等学校卒業程度認定試験規則」第5条第6項に「試験の免除は、試験科目の全部について行うことはできない」とあり、高卒認定試験合格のためには最低でも1科目を受験して合格することが必要とされている。

◇試験日程の確認

例年、高卒認定試験の第1回試験は8月上旬に、第2回試験が11月上旬に実施される。2023年度の出願期間と試験日は次のような日程となっている。

第1回	出願期間	4月3日～5月8日
	試験日	8月3日、4日
第2回	出願期間	7月18日～9月8日
	試験日	11月4日、5日

年に2回の試験が実施されているが第1回試験の出願期間は5月8日で終了し、第2回試験の出願期間も9月8日で終了する。9月8日以降は翌年の第1回試験(8月)が最も早い受験機会となる。中途退学者が高卒認定試験を受験する場合には出願期間などの日程も確認しながらの指導が重要である。

◇過去問題についての情報

生徒が中途退学の可能性があり高卒認定試験の受験を検討しているのであれば、高卒認定試験の合格率や問題の難易度について適切な情報を提供することが大切である。受験者数や合格者数は文部科学省のホームページに公開されており、高卒認定試験の過去問題も公開されている。これらの情報を入手できるよう適切に助言したい。また生徒本人や保護者に「高卒認定試験は難しい」、「合格するには予備校の高卒認定試験講座を受講する必要がある」というような誤解がある場合には、「現在の高卒認定試験は概ね受験者の2人に1人が合格する試験である」こと、試験科目によっては「中学の教科書レ

ベルで対応できる」ということも伝え誤解を解くことが大切である。

4-2 教科指導上の留意点

高卒認定試験で実施された地理A、地理Bの問題を分析した結果、全80問の中で「高校の教科書に記載されている知識」を求める問題はわずかに5問であった。一方で問題中の資料（文章、地図、グラフ、表、図版等）を読み取ることで解答できる問題が75問であった。このような出題割合になっている理由について、高等学校学習指導要領とその解説の内容から考察し、その上で高等学校における教科指導上の留意点について明らかにしたい。なお新しい学習指導要領（平成30年告示）が2021年度から学年進行で実施されているが、高卒認定試験の試験科目と試験内容は2023年度実施の試験まで旧学習指導要領（平成21年度告示）に沿った内容で実施されている。したがって以下で引用する高等学校学習指導要領とその解説は旧学習指導要領の内容である。

4-2-1 地理的な見方や考え方を培う

学習指導要領に記載されている地理A、地理Bの科目の「目標」は次のとおりである（下線は筆者）。

「地理A」：現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

「地理B」：現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

両科目とも「地理的な見方や考え方を培う」ことが科目の「目標」の中に記載されている。現学習指導要領では外国語の科目を除くすべての教科において各科目の「見方・考え方」を働かせることが明記されたが、旧学習指導要領において地理歴史の科目で「目標」に「見方や考え方」が記載されているのは「地理A」と「地理B」のみである。「地理的な見方や考え方を培う」という科目の目標を受け、高校卒業認定試験の地理A、地理Bの出題のねらいは「知識」を問うことではなく、「地理的な見方や考え方」が身に付いているかを問うことに置かれていると考えられる。「地理的な見方や考え方」が身に付いているかを問うには単純に「知識」を求める設問形式では難しい。自ずと「知識」を求める問題数は限定され、2022年度の2回の試験では80問中の5問にとどまっている。

4-2-2 地理的技能を身に付ける

学習指導要領における地理A、地理Bの「内容の取扱い」には「内容の全体にわたって配慮すべき事項」として次のように記載されている。

- ・地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。

また学習指導要領の解説では「地図帳に掲載されている一般図や主題図、その他写真や統計資料など様々な地理情報を十分に活用して地理学習を一層充実させることが望まれる」としている。

学習指導要領や学習指導要領解説に記載されたこれらの内容に沿って、高卒認定試験で実施された地理A、地理Bのすべての問題が様々な資料（地図、グラフ、表、図版など）を使用し、それらを読み取ることを通して地理的技能が身に付いているかを問うている。

4-2-3 高卒認定試験の問題形式と作業的、体験的な学習

高卒認定試験の地理A、地理Bの問題が授業をイメージした問題形式になっていることにも注目したい。すべての問は授業中の教師と生徒の会話文、生徒同士の会話文、調べ学習などで得た資料、生徒が作成したレポートや発表資料などを題材として作成されている。こうした問題作成は2022年の問題だけでなく、地理A、地理Bの問題では以前より行われていた。市販されている過去問題集で確認したところ2015年の高卒認定試験においても地理A、地理Bのすべての問が同様に作成されていた。高卒認定試験において同じ地理歴史科の他の試験科目（世界史A・B、日本史A・B）でも授業をイメージした問題形式が用いられているが、その割合は2022年の高卒認定試験においても問全体の4割から5割である。このように地理A、地理Bの問のすべてが授業をイメージした問題形式となっている理由として学習指導要領の解説に記載されている「科目の性格」が考えられる。地理A、地理Bとも「科目の性格」として「作業的、体験的な学習」が重視されると記載されている。このような「科目の性格」を問題形式にも反映させ会話文、調べ学習で得た資料、レポートや発表資料などが題材として用いられ、すべての問が授業をイメージした問題形式で作成されている。しかも2015年に実施された試験において、すでにすべての問がそのようになっていた。これまでの高等学校の地理A、地理Bの授業に目を向けた時に、大学受験対策を中心とした「知識」偏重、講義中心の授業内容から抜け出すことが出来ていただろうか。「作業的、体験的な学習」を積極的に取り入れ、「地理の見方や考え方」、地理的技能を身に付けることが出来ていただろうか。

すでに2022年度より高等学校においても新しい学習指導要領が学年進行で実施されている。新しい学習指導要領の解説においても地理総合の「科目の性格」には「学習過程にあつては、作業的で具体的な体験を伴う学習を一層重視」と記載されている。これまで以上に作業的、体験的な学習を重視すること、そして「社会的な事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動」を行うことが求められている。

資料①

大検の合格率（1951～2004年）

年	実施回数	受験者 a(人)	合格者 b(人)	合格率 b/a	備考
1951	1回	6,029	338	5.6%	最低倍率
1952	1回	6,212	663	10.7%	
1953	1回	5,782	683	11.8%	
1954	1回	6,825	859	12.6%	
1955	1回	4,695	689	14.7%	
1956	1回	3,951	596	15.1%	
1957	1回	3,131	390	12.5%	
1958	1回	2,401	289	12.0%	
1959	1回	2,206	329	14.9%	
1960	1回	2,221	263	11.8%	
1961	1回	2,090	306	14.6%	
1962	1回	1,947	251	12.9%	
1963	1回	2,082	274	13.2%	
1964	1回	2,298	330	14.4%	
1965	1回	2,169	393	18.1%	
1966	1回	2,241	368	16.4%	
1967	1回	2,029	384	18.9%	
1968	1回	1,947	334	17.2%	
1969	1回	2,019	450	22.3%	合格率20%超え
1970	1回	2,176	567	26.1%	
1971	1回	2,280	612	26.8%	
1972	1回	2,758	648	23.5%	
1973	1回	2,864	750	26.2%	
1974	1回	3,132	924	29.5%	
1975	1回	3,141	1,426	45.4%	合格率40%超え
1976	1回	2,859	1,117	39.1%	
1977	1回	2,835	1,159	40.9%	
1978	1回	2,792	1,025	36.7%	
1979	1回	2,870	1,177	41.0%	
1980	1回	3,116	1,246	40.0%	
1981	1回	3,302	1,329	40.2%	
1982	1回	3,697	1,544	41.8%	
1983	1回	4,147	1,604	38.7%	
1984	1回	5,679	1,938	34.1%	
1985	1回	7,406	2,089	28.2%	
1986	1回	8,809	3,592	40.8%	
1987	1回	11,682	3,331	28.5%	
1988	1回	13,675	4,086	29.9%	
1989	1回	14,560	4,342	29.8%	
1990	1回	16,360	5,105	31.2%	

年	実施回数	受験者 a(人)	合格者 b(人)	合格率 b/a	備考
1991	1回	17,007	5,257	30.9%	
1992	1回	17,708	5,426	30.6%	
1993	1回	18,045	5,730	31.8%	
1994	1回	17,670	5,810	32.9%	
1995	1回	16,957	5,850	34.5%	
1996	1回	16,669	5,917	35.5%	
1997	1回	16,826	6,923	41.1%	
1998	1回	16,976	10,013	59.0%	最高合格率
1999	1回	17,900	10,332	57.7%	
2000	1回	19,152	9,491	49.6%	
2001	2回	32,460	14,004	43.1%	
2002	2回	27,425	12,227	44.6%	
2003	2回	24,250	10,381	42.8%	
2004	2回	22,457	8,996	40.1%	
大検の合格率の平均				28.9%	

高卒認定試験の合格率（2005～22年）

年	実施回数	受験者 a(人)	合格者 b(人)	合格率 b/a	備考
2005	2回	23,784	9,599	40.4%	
2006	2回	26,216	10,260	39.1%	
2007	2回	28,317	12,269	43.3%	
2008	2回	29,776	12,541	42.1%	
2009	2回	29,967	12,308	41.1%	
2010	2回	28,399	12,849	45.2%	
2011	2回	26,410	11,056	41.9%	
2012	2回	25,201	8,569	34.0%	最低合格率
2013	2回	24,463	8,469	34.6%	
2014	2回	23,743	10,427	43.9%	
2015	2回	23,170	10,755	46.4%	
2016	2回	22,539	10,185	45.2%	
2017	2回	21,744	10,451	48.1%	
2018	2回	21,220	10,177	48.0%	
2019	2回	19,853	8,931	45.0%	
2020	2回	16,654	8,443	50.7%	最高合格率
2021	2回	17,704	8,818	49.8%	
2022	2回	17,154	7,961	46.4%	
高卒認定試験の合格率の平均				43.6%	

資料② 地理A・地理Bの試験問題で解答に求められる知識・技能

地理A

	問番号	知識	技能（読み取る力）					
		高校教科書	文章	地図	グラフ	表	図版	
第1回試験	大問1	問1		○	○			
		問2	○	○	○			
		問3		○	○			
		問4		○				○
	大問2	問1		○	○			
		問2	○	○			○	○
		問3		○	○			
		問4		○				○
	大問3	問1		○		○		○
		問2			○	○		
		問3		○	○	○		
		問4		○		○		
	大問4	問1		○	○			○
		問2		○	○			○
		問3		○	○			○
		問4		○				○
	大問5	問1			○			
		問2		○	○			
		問3		○		○		
		問4	○	○		○		
第2回試験	大問1	問1		○	○			
		問2		○	○			
		問3		○	○			
		問4		○	○			○
	大問2	問1		○	○			○
		問2		○	○			○
		問3		○	○			
		問4		○	○	○		○
	大問3	問1		○	○		○	
		問2		○	○	○		○
		問3				○	○	
		問4		○				○
	大問4	問1		○	○			○
		問2		○	○			
		問3		○	○			
		問4		○	○		○	○
	大問5	問1			○	○		
		問2			○			
		問3		○		○	○	
		問4		○		○		
地理A合計			3	35	28	12	5	16

地理B

	問番号		知識	技能（読み取る力）					地理A問題との重複
			高校教科書	文章	地図	グラフ	表	図版	
第1回試験	大問1	問1	○	○	○				大問1の問2と同じ
		問2			○				大問5の問1と同じ
		問3		○	○			○	大問4の問1と同じ
		問4		○				○	大問1の問4と同じ
	大問2	問1	○	○	○	○		○	
		問2		○		○		○	大問3の問1と同じ
		問3		○		○		○	
		問4		○		○		○	
	大問3	問1			○	○			大問3の問2と同じ
		問2		○	○	○			大問3の問3と同じ
		問3		○	○			○	
		問4		○		○			大問3の問4と同じ
	大問4	問1		○	○				
		問2		○		○	○		
		問3		○		○			
		問4		○			○		
	大問5	問1		○	○				
		問2			○	○			
		問3		○		○		○	
		問4		○		○		○	
第2回試験	大問1	問1		○	○			○	大問4の問1と同じ
		問2		○	○				大問4の問3と同じ
		問3		○	○		○	○	大問4の問4と同じ
		問4			○				大問5の問2と同じ
	大問2	問1		○	○		○		大問3の問1と同じ
		問2		○	○	○		○	大問3の問2と同じ
		問3				○	○		大問3の問3と同じ
		問4		○		○		○	
	大問3	問1		○				○	大問3の問4と同じ
		問2		○	○				
		問3		○	○				
		問4		○	○				
	大問4	問1		○	○	○			
		問2			○		○		
		問3			○				
		問4		○	○	○		○	
	大問5	問1		○	○				
		問2		○		○			
		問3			○	○			
		問4		○		○		○	
地理B合計			2	32	25	20	6	16	

地理Aと地理Bの合計

5	67	53	32	11	32
---	----	----	----	----	----